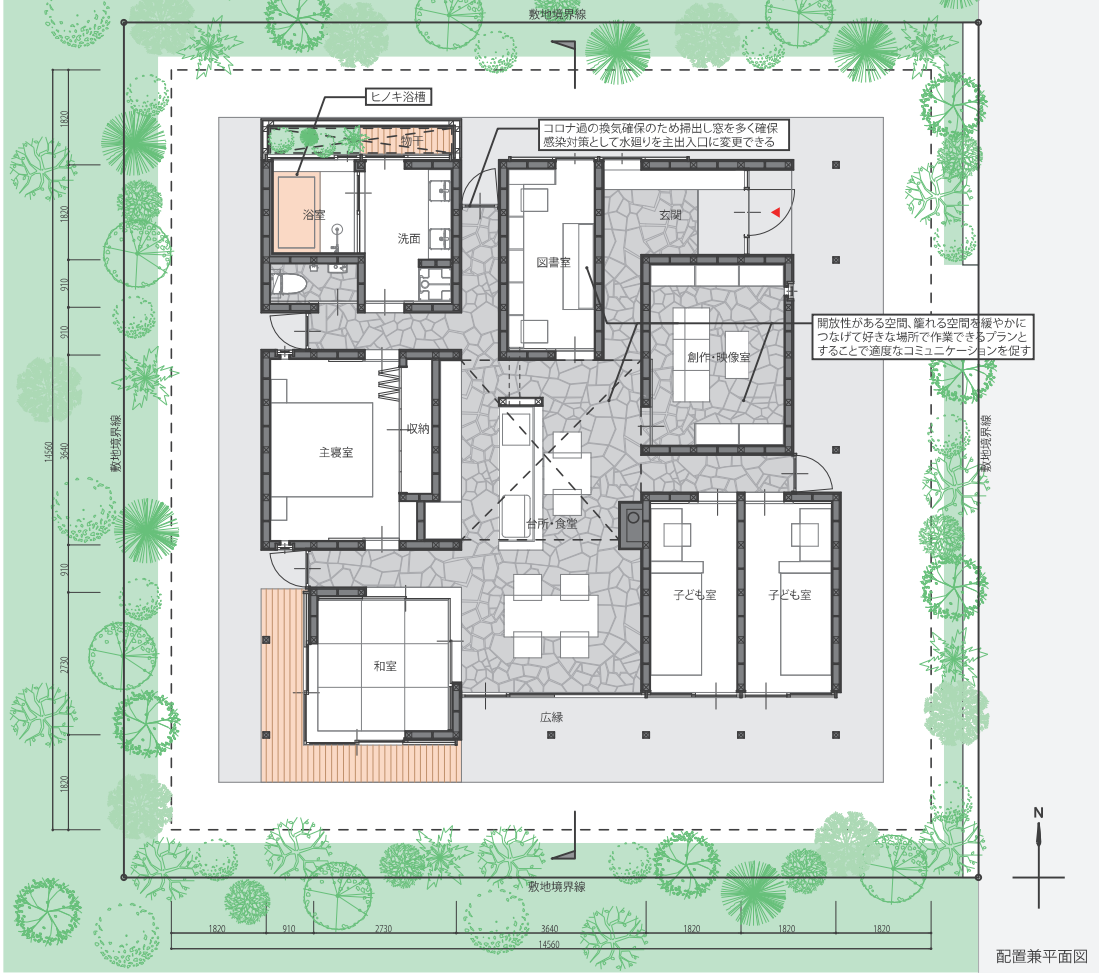
ひとつなぎにする家

― 家族の距離感と時間をつくる ―

距離・・・居間はテレビ・会話・趣味活動・接客に使われるが、同時間帯の活動は難しく
空間としての落ち着きが無いと思われる
→ 映像を楽しむ、趣味を楽しむ、読書を楽しむ、接客を楽しむことに特化した
部屋を家の中心から緩やかにつなげ、お互いの気配を感じさせることで
自然なコミュニケーションを喚起できると考える

時間・・・コロナ過や作業環境改善により在宅時間が伸びる可能性がある
→ 作業に集中できたり、気分転換で開放性があったりという居場所で、かつ
時間の経過に応じて柔軟に変化できるように考え、例えば図書室はワーク
スペースに、創作・映像室はweb会議に、和室はゲストルームに等々



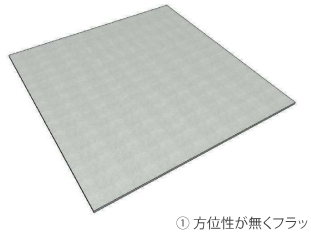
配置兼平面図

家族の在り方や集って住まうかたちを定義するときに、それぞれの構成要素について整理した

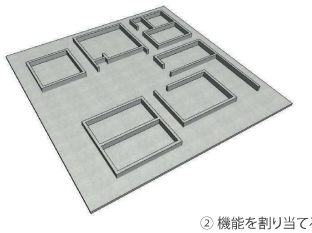
① 敷地外周部の与条件に左右されることも多いが、フラットな状態から家族の距離感や時間の使い方を考えた
② 長短期の時間の経過を見据え、外界との仕切りや内部機能どうしの仕切り方を考えて部屋を配置した
③ 機能・美観・将来の家族構成の変化を踏まえ、無理なく中央に動線が集まることができるように壁量を確保した
④ できる限り階層性が無くフラットな距離感をつくるため、方位性を無くすとともに家の中心をつくる屋根形状とした
⑤ 家の中心に安心感や快適性をつくり出すために採光・通風を取り入れる屋根形状とした

設計概要

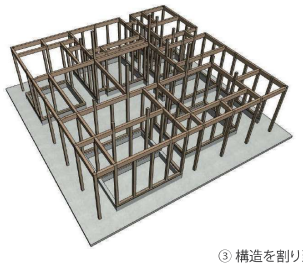
建築面積	157.75㎡
延床面積	103.51㎡
構造規模	木造（在来工法）・平屋建て
基礎	べた基礎
軒高	2,930 mm
最高高さ	5,460 mm



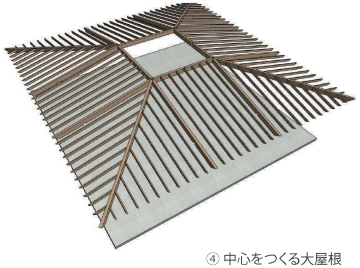
① 方位性が無くフラット



② 機能を割り当てる

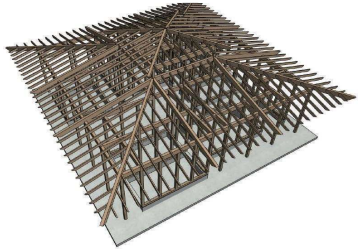


③ 構造を割り当てる

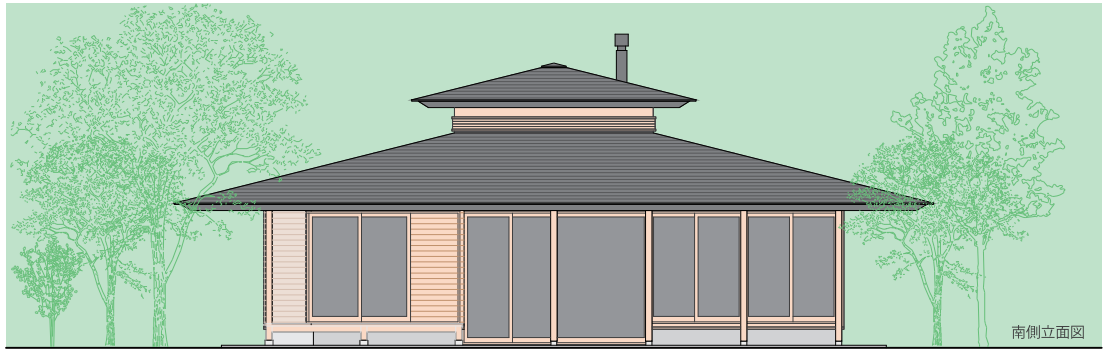


④ 中心をつくる大屋根

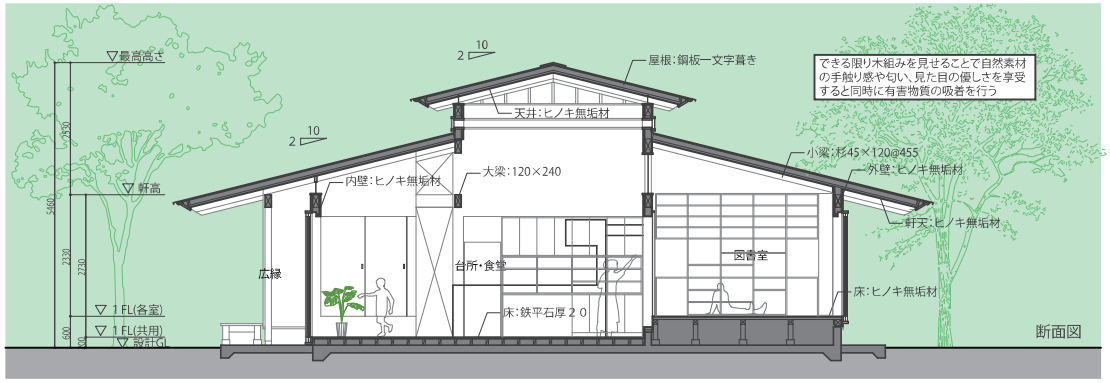
⑤ 採光と通風と中心を担う越屋根



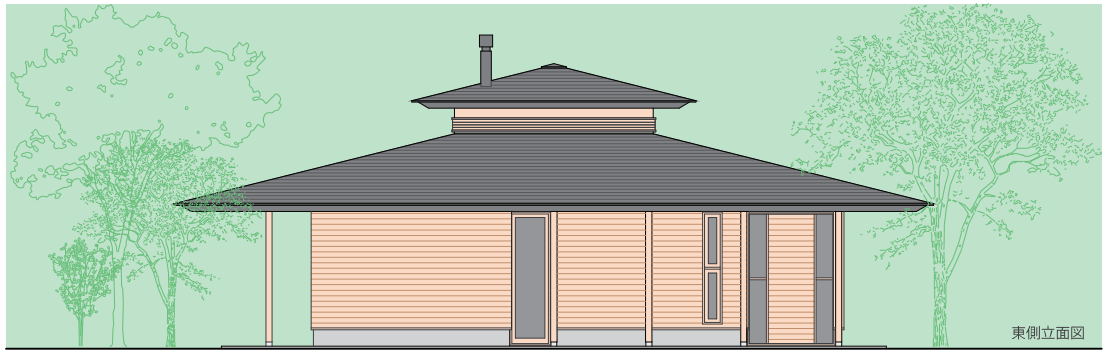
全体構成



南側立面図



断面図



東側立面図